

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクジン ホリクダガク 学校法人 北陸大学								
フリガナ大学の名称	ホリクダガク 北陸大学 (Hokuriku University)								
大学本部の位置	石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地								
大学の目的	<p>本学は教育基本法及び学校教育法による大学として、建学の精神「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間の形成」に基づき、広く知識を授けるとともに、深く専門の知識と技能とを教授研究し、人格の陶冶を図り、文化の創造発展と公共福祉の増進に貢献し得る人物を育成することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>疾病の治療・予防、介護予防・障害予防、人々の健康維持・増進に理学療法の領域から寄与し、科学的根拠に基づくリハビリテーションが実践できる理学療法士を養成することを目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	医療保健学部 [Faculty of Health and Medical Sciences] 理学療法学科 [Department of Physical Therapy]	年	人	年次人	人	学士（理学療法学） 【Bachelor of Physical Therapy】	令和5年4月 第1年次	石川県 金沢市太陽が丘 1丁目1番地	
	計		60	—	240				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>薬学部 薬学科〔定員減〕 (△5) (令和5年4月) 経済経営学部 マネジメント学科〔定員減〕 (3年次編入学定員) (△5) (令和7年4月) 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科〔定員減〕 (3年次編入学定員) (△10) (令和7年4月) 心理社会学科〔定員増〕 (15) (令和5年4月)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医療保健学部 理学療法学科	講義	演習	実験・実習	計	128 単位			
		64 科目	21 科目	20 科目	105 科目				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等
				教授	准教授	講師	助教	計	
	新設	医療保健学部 理学療法学科	4 (4)	2 (1)	4 (3)	2 (0)	12 (8)	2 (1)	39 (12)
	計	4 (4)	2 (1)	4 (3)	2 (0)	12 (8)	2 (1)	- (-)	

教 員 組 織 の 概 分 要	既 設	薬学部 薬学科	21 (22)	11 (14)	9 (8)	1 (3)	42 (47)	1 (1)	19 (19)	
		経済経営学部 マネジメント学科	15 (15)	5 (6)	4 (3)	6 (6)	30 (30)	0 (0)	39 (39)	
		国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科	5 (4)	5 (5)	6 (6)	1 (1)	17 (16)	0 (0)	33 (33)	
		心理社会学科	3 (3)	3 (2)	3 (1)	2 (1)	11 (7)	0 (0)	25 (25)	
		医療保健学部 医療技術学科	7 (8)	4 (4)	4 (4)	3 (2)	18 (18)	2 (2)	20 (20)	
		高等教育推進センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	- (-)	
		国際交流センター	0 (0)	3 (3)	3 (3)	2 (2)	8 (8)	0 (0)	- (-)	
		留学生別科	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	3 (1)	
		計	52 (53)	33 (36)	29 (25)	15 (15)	129 (129)	3 (3)	- (-)	
	合計	56 (57)	35 (37)	33 (28)	17 (15)	141 (137)	5 (4)	- (-)		
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		53 (56)	19 (18)	72 (74)					
	技 術 職 員		0 (1)	1 (1)	1 (2)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	2 (3)	3 (4)					
	そ の 他 の 職 員		2 (2)	2 (2)	4 (4)					
計		56 (60)	24 (24)	80 (84)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	91,775.85㎡	0 ㎡	0 ㎡	91,775.85㎡					
	運 動 場 用 地	44,704.53㎡	0 ㎡	0 ㎡	44,704.53㎡					
	小 計	135,276.34㎡	0 ㎡	0 ㎡	135,276.34㎡					
	そ の 他	337,786.99㎡	0 ㎡	0 ㎡	337,786.99㎡					
	合 計	473,063.33㎡	0 ㎡	0 ㎡	473,063.33㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		62,975.96㎡ (62,975.96㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	62,975.96㎡ (62,975.96㎡)					
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	45室	42室	26室	5室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		医療保健学部 理学療法学科		13 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書246,000冊 【88,600冊】 学術雑誌1,210種 【100種】 電子ジャーナル 1,700種 【1,698種】 視聴覚資料2,800点		
	医療保健学部 理学療法学科	1,090 [46] (913 [4])	5 [0] (5 [0])	- [-] (- [-])	76 (1)	1,142 (622)	- (-)			
	計	1,090 [46] (913 [4])	5 [0] (5 [0])	- [-] (- [-])	76 (1)	1,142 (622)	- (-)			
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	3,689.34 ㎡		635		250,000					
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
	6,456.86 ㎡		テニスコート3面 (人工芝)		サッカー場2面 (人工芝)					

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
	教員1人当り研究費等		360千円	360千円	360千円	360千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		18,000千円	18,000千円	18,000千円	18,000千円	—千円	—千円	
	図書購入費	3,850千円	834千円	842千円	600千円	600千円	—千円	—千円	
	設備購入費	229,905千円	33,800千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,700千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金, 資産運用収入, 雑収入等						
既設大学等の状況	大学の名称	北陸大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	薬学部 薬学科	年	人	年次人	人	学士(薬学)	0.55 0.55	平成18年度	石川県金沢市 金川町ホ3番地
	経済経営学部 マネジメント学科	4	305	3年次 108	1,361	学士(マネジメント学)	1.10 1.10	平成20年度	石川県金沢市 太陽が丘1丁目1番地
	国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科	4	95	3年次 40	375	学士(文学)	1.06 1.04	平成29年度	同上
	心理社会学科	4	45	—	90	学士(心理学)	1.02	令和3年度	
医療保健学部 医療技術学科	4	65	—	250	学士(医療技術学)	1.06 1.06	平成29年度	同上	
附属施設の概要	名称：北陸大学薬学部附属薬用植物園 目的：薬学教育の基礎としての薬草の生態・研究施設，研究材料の栽培 所在地：石川県金沢市金川町ホ3番地 設置年月：昭和51年5月 規模等：土地 15,912.16㎡，建物 136.71㎡								

教育課程等の概要															
(医療保健学部理学療法学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
一般教養科目	北陸大学の学び	1前	1			○									兼1
	生命・医療倫理学	1前	1			○									兼1
	スポーツⅠ	1前		1				○							兼1
	スポーツⅡ	1後		1				○							兼1
	情報リテラシー	1前	1					○							兼1
	データサイエンス	1後		1				○							兼1
	心理学	1後		2		○									兼1
	法学	1後		2		○									兼1
	哲学	1後		2		○									兼1
	社会学	1前		2		○									兼1
	コミュニケーション論	2後		2		○									兼1
	北陸の文化と社会	2前		2		○									兼1
	日本史	2後		2		○									兼1
	化学	1前		1				○							兼1
	生物学	1前		1				○		1					兼1
	数学	1前		1				○							兼1
	物理学	1前		1				○							兼1
	英語Ⅰ	1前	1					○							兼2
	英語Ⅱ	1後	1					○							兼2
	医療英語	3前		1		○				1	1				
	基礎ゼミナールⅠ	1前	1					○		4	2	4	2		
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1					○		4	2	4	2		
	海外研修Ⅰ	2前			1				○						兼1
	海外研修Ⅱ	2後			1				○						兼1
	教育学概論	2前		2			○								兼1
	教育方法論	2後		2			○								兼1
小計(26科目)	—	—	7	26	2	—	—	—	4	2	4	2	0	兼17	
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	2			○								
		解剖学Ⅱ	1前	2			○			1	1				
		解剖学実習	1後	1					○	1	1				
		生理学Ⅰ	1前	2			○			1					
		生理学Ⅱ	1後	2			○			1					
		生理学実習	2前	1					○	1	1				
		運動学	1後	2			○			1					
		運動学実習	2前	1					○			1	1		
		人間発達学	1後	2			○			1					
		小計(9科目)	—	—	15	0	0	—	—	3	1	1	1	0	0
専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション医学	1後	2			○			1					
		整形外科	2前	2			○			1					
		病理学	1後	2			○								兼1
		臨床心理学	3前	2			○								兼1
		精神医学	2後	2			○								兼1
		内科学	2前	2			○								兼1
		薬理学	3前	2			○								兼1
		神経内科学	2前	2			○								兼1
		栄養学	3後	1			○								兼1
		小児科学	2後	2			○								兼2
		画像診断学	3後	1			○								兼1
		救急処置法	3後	1			○								兼1
小計(12科目)	—	—	21	0	0	—	—	1	0	0	0	0	兼11		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	保健医療福祉 の リハビリ テーシ ョンの 理念	リハビリテーション概論	1前	2			○			1						
		医療統計学	3後	1			○									
		チーム医療論	3後	1			○									
		地域包括ケアシステム論	3後	1			○									
		小計(4科目)	—	5	0	0	—			1	0	0	0	0		兼1 兼1 兼1 兼3
専門科目	基礎 理学 療法 学	理学療法概論	1前	2			○			1						
		基礎理学療法学	1後	2			○					1		1		
		運動療法学	1後	2			○			1						
		運動療法学実習	2前	1					○	1		1				
		医療安全管理学	2前	1			○									
		小計(5科目)	—	8	0	0	—			1	0	2	0	1		兼1 兼1
	管 理 学	理学療法管理学	4後	2			○			1						
		小計(1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0		0
	理 学 療 法 評 価 学	理学療法評価学	1後	2			○				1					
		理学療法評価学実習Ⅰ	2前	1					○			1	1			
		理学療法評価学実習Ⅱ	2後	1					○			1	1			
		理学療法評価学演習Ⅰ	2後	1				○				1	1			
		理学療法評価学演習Ⅱ	3前	1				○				1	1			
		小計(5科目)	—	6	0	0	—			0	1	2	2	0		0
	理 学 療 法 治 療 学	物理療法学	2前	2			○					1				
		物理療法学実習	2後	1					○			2				
		義肢装具学	2前	2			○									
		義肢装具学演習	2後	1				○		1				1		兼1 兼1 ホニバス
		日常生活活動学演習	2前	1				○					1	1		
		老年期障害理学療法学演習	2後	1				○				1		1		
運動器障害理学療法学		2後	2			○			1							
運動器障害理学療法学実習		3前	1					○	1		1					
神経障害理学療法学		2後	2			○			1							
神経障害理学療法学実習		3前	1					○	1		1					
内部障害理学療法学		2後	2			○				1						
内部障害理学療法学実習		3前	1					○				1				
発達障害理学療法学演習		3前	1				○		1				1			
予防理学療法学		3前		2			○					1				
先進技術と理学療法学	3前		2			○			2							
小計(15科目)	—	18	4	0	—			2	1	4	2	2		兼 1		
地 域 理 学 療 法 学	地域理学療法学	3前	2			○					1					
	生活環境学	3後	1			○										
	地域理学療法学演習	3後		1			○				1		1		兼1	
	小計(3科目)	—	3	1	0	—			0	0	1	0	1		兼 1	
臨 床 実 習	臨床基礎実習	1前	1					○	2	2	4	2	2			
	検査・測定実習	2後	2					○	2	2	4	2	2			
	臨床評価実習	3後	4					○	2	2	4	2	2			
	総合臨床実習Ⅰ	3後～4前	6					○	2	2	4	2	2			
	総合臨床実習Ⅱ	4前	6					○	2	2	4	2	2			
	地域理学療法学実習	4前	1					○	2	2	4	2	2			
	小計(6科目)	—	20	0	0	—			2	2	4	2	2		0	
総 合 科 目	理学療法学研究法	3後	1				○		4	2	4					
	総合理学療法学演習Ⅰ	3後	1				○		1	1	1				ホニバス	
	総合理学療法学演習Ⅱ	4後	2				○		1	1	2	2			ホニバス 共同(一部)	
	卒業研究	4通	2				○		4	2	4					
	小計(4科目)	—	6	0	0	—			4	2	4	2	0		0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	発展科目	スポーツ科学	1前	2		○										兼1	
		アスレチックリハビリテーション概論	1後	2		○			1								兼1
		運動神経生理学	2前	2		○											兼1
		バイオメカニクス	3前	2		○											兼1
		トレーニング論	3後	1		○											兼1
		スポーツ障害理学療法	2後	2		○			1								兼1
		リハビリテーション工学	3前	2		○											兼1
		東洋医学	1後	2		○											兼1
		医用情報科学概論	2前	2		○											兼1
		東洋医学治療学	2後	2		○											兼1
		免疫・感染症学	3前	2		○											兼1
		疾病予防と健康増進	3前	1		○				1							兼1
		臨床薬学	3後	1		○											兼1
		公衆衛生学	4後	1		○											兼1
		臨床生理学	4後	2		○											兼1
	小計 (15科目)	—	0	26	0		—		2	0	0	0	0		兼10		
合計 (105科目)		—	111	57	2		—		4	2	4	2	2		兼39		
学位又は称号		学士 (理学療法)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)										
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
【卒業要件】 一般教養科目 14単位以上 (必修 7単位含む) 専門基礎科目 41単位 専門科目 73単位以上 (必修63単位含む) 「予防理学療法」又は「先進技術と理学療法」 からどちらか1科目2単位選択必修 合計 128単位以上 【履修科目の登録の上限】 48単位 (年間)							1学年の学期区分			2期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(医療保健学部理学療法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一 般 教 養 科 目	北陸大学の学び	北陸大学の一員としての自覚と本学での学生生活への意欲向上のために北陸大学の建学の精神・理念を周知し、自校史や現況を理解する。大学の建学の精神や歴史、社会的な役割、行われている教育・研究の内容や成果について学習する。また、卒業生がどのような思いで学び、現在どのように捉えているのかを知る。これらについてグループ内で討議し、他者と協働して、その学習成果を発表する。	
	生命・医療倫理学	本科目では、医療をとりまく法的・倫理的・社会心理的問題を通して、生命に向き合い、自らの言葉で考え、問題を抽出する力を養い、多様な価値観に耳を傾ける力を身につけることを目的とする。生命の大切さを認識し、患者、利用者やその家族の人権を守り、医療人の責務を全うすることの重みを理解する。自らの倫理観と他者との共通・相違について理解し、医療人としての倫理観を身につける。具体的な事案を例示して、倫理的側面から考察する機会を設ける。	
	スポーツⅠ	科学的トレーニング理論に基づいたスポーツ・運動実践（個人スポーツや集団スポーツ）を通して、体力を増進させること、運動技能を習得させること、協働性・主体性を養うことを目的とする。さらに、心肺蘇生法（AED講習を含む）の実践を通して、傷害の応急処置能力を身につけることを目的とする。本科目では新体力テスト（文部科学省）に沿った体力測定を行った後、各コースに分かれ、受講生の経験・技能レベルに応じたスポーツ実習を行う。	
	スポーツⅡ	本科目の目的は、科学的トレーニング理論に基づいたスポーツ・運動実践（個人スポーツや集団スポーツ）を通して、体力を増進させること、運動技能を習得させること、協働性・主体性を養うことである。新体力テスト（文部科学省）に沿った体力測定を行った後、各コースに分かれ、受講生の経験・技能レベルに応じたスポーツ実習を行う。各種スポーツの基本技術の練習を行い、簡易的ゲームにより実践力を身につける。その際には、学生同士が協力し合い、課題を解決する機会を設ける。	
	情報リテラシー	「情報リテラシー」とは、大学での学修や社会で仕事を行う際に必要となるパーソナルコンピューターの操作方法に関するスキルであるとともに、パーソナルコンピューターやインターネット上の情報を活用できる力（情報収集→情報分析→課題発見→構想→表現）のことである。本科目では、そのような「情報リテラシー」を理解するとともに、データの収集方法とその分析方法も実践的に学修することで、科学的な課題解決能力の基本を身につける。	
	データサイエンス	データサイエンスは、ビッグデータ分析やAI (Artificial Intelligence) と呼ばれる人工知能など新しい技術のみならず、人々の生活、社会、自然環境における課題解決において必要となる科学である。本科目では、データの正しい取り扱いや適切な分析によって、価値のある情報を見出すことを学修する。人文科学、社会科学、自然科学といったどのような分野においても重要となるデータ解析や統計解析についても学修する。	
	心理学	心理学は「心の科学」と言われている。心という見えないものを科学的に研究する学問と言えるであろう心理学を特徴付けるのはその対象である「心」そのものではなく、心理学としての研究方法にあるのである。人間が外界をどのように認知するのかという基礎心理学的なテーマから心理臨床に関するテーマまで幅広く心理学を概観するとともに、一人の人間としての自らの心理についても振り返って考察することができることを目標としている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教養科目	法学	日本国憲法の概要について講義する。個別の条文の解釈論に踏み込んだり、最高裁判例の展開を確認するような講義をするのではなく、教科書が設定する具体的な状況や事例を通して、それらが、憲法的にどのように理解できるかを説明する。本科目では、立憲主義の考え方、統治の基本的な仕組み、人権保障の考え方など、憲法を貫く大きなテーマについて、自分の言葉で説明できるようになることを目的とする。	
	哲学	「哲学」とは、物事を根本的に考えるということである。現代社会にはさまざまな課題があるが、解決方法のわからない問題に取り組むためには、哲学的にその問題の根を問い直すことが必要である。この授業では、現代社会に生起する多様な諸問題について、先哲の思想を参考にしながら、自ら考えていく方法を学ぶ。本科目では、健康とは何か、どこまで人それぞれと言えるのか、生命と自己決定などのテーマを取り扱う。	
	社会学	社会学とは、自分が当たり前だと思っていることが、いかに周りの人間や環境に影響されているかを知るための学問であると考えている。自分が担っている役割、あるいはこれから担うであろう役割は多重的であり、社会の中で位置づけられている。この授業では、「社会学的想像力（ミルズ）」を養いながら、社会の構造や社会問題の成り立ち、また社会の中の家族の構造や役割について、「近代」という時代の歴史的特殊性に関連付けながら、自分たちが属している「社会」について理解する。	
	コミュニケーション論	本科目は、大学での学びの質的深化および社会人の基本的な技能として必要なコミュニケーション能力について、その技法を学ぶものである。コミュニケーションは対人関係を構築するためや社会・組織を円滑に運営するために必要であるが、反面でその圧力が「個」の生きにくさにも繋がる。そこで本科目ではコミュニケーションに関する基本的な理解とともに、医療現場における、その技法を向上させることを目的とする。学生自身が実践するアクティブラーニング形式も取り入れる。	
	北陸の文化と社会	北陸地域には豊かな歴史・民俗をはじめ、様々な芸術や藩政期以来培われてきた伝統的な芸能・工芸、民俗など、多彩な文化があふれている。また、それらは現在も北陸地方の社会に大きな意味を持ち続けている。本科目では、これらを題材に受講生が、北陸地域の文化や、それを背景にもつ社会に関する知識を養うことができる。さらに、地域の文化の継承と発展、文化の活用による地域社会の活性化や振興などの諸課題について考える力を身につけることができる。	
	日本史	今日、日本および日本をとり巻く国際社会では、様々な出来事がおこっているが、それらは良くも悪くも歴史に根ざした長い間の人間の所産であり、歴史、とりわけ日本史が理解できていないと、近年日本が直面している問題を理解できないことが多々ある。本科目では、政治・経済・文化などの面で、現代社会の基盤をなす事例が多く見られる近世から近代の日本の歴史を、近年の研究成果も織り込みながら概説する。それによって学生は、重要な歴史的事件・事象・人物についての知識を身につけることができる。	
	化学	すべての物質は元素から成り立っており、生体、食品、医薬品等においても例外ではない。よって、医療現場に携わる者において化学の知識は必要不可欠なものである。この科目では専門分野で用いられる化学の準備段階として、基礎的な化学の知識および計算技能について学んでいく。物質を構成する原子の構造や結びつきについて理解し、将来の医療人として必要な知識および技術の修得を目標とする。	
生物学	医療従事者を目指す学生にとって、生物学を通して生物とその生命現象、ヒトのからだのしくみについて理解することは重要である。この科目では専門分野で使用される生物学的な内容のための基礎作りとして、これまでに修得した生物の知識を確認しながら、特に医療従事者を目指す学生に関連深い内容を取り扱う。具体的には細胞の構造と機能、酵素、エネルギー産生、呼吸、循環、代謝、内分泌等について学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教養科目	数学	数学は生命科学や医療を学ぶ上で役立つ科目である。まずは、数学に関心を持ち、論理的解析能力と計算力を伸ばすため、2次関数や指数・対数、三角関数といった初等関数を学修する。さらに、医療統計学に必要な順列と組み合わせ、確率などに必要な数学を計算例や応用問題を解きながら学修することにより、専門基礎科目や専門科目の導入がスムーズに行われる力と理解の修得を目指す。	
	物理学	日常生活や臨床施設の中で遭遇する様々なできごとや動作、物理現象について学ぶ。まず、物理量とその表し方、物理学で使うグラフと関数について学び、物理学の基礎を理解する。次に、身体活動に関連深い内容を学ぶ。具体的には、運動の種類、力のつり合い、運動の法則、重心、運動量などについて、演習形式で学修する。さらに、物理療法の原理を理解するために必要な基礎知識も身につける。具体的には、熱、音、光、電気、磁気などについて学ぶ。本科目では理学療法に関連する物理学の基礎知識を学ぶことを主な目的とする。	
	英語 I	本科目の目的は、英語の学習をとおして言語の感性をみがき、表現の幅を広げる。授業をとおして様々なトピックに触れ、自分の考えや意見をもてるようにすることである。高校までに学んだ英語の知識や技能を基礎に置きながら、身の回りの様子や出来事を的確に表現する力を身につける。教科書を通じて語彙や基礎的な文構造の知識を定着させる。読む、聞く、話す、書くことをバランスよく取り入れて、講義を展開する。主に医療分野に関わる内容を題材に学修を進める。	
	英語 II	グローバル化が進む中、様々な分野においてそれぞれの専門知識や技術だけでなく語学力が求められている。近年、日本では外国人観光客や外国人居住者の増加に伴い、医療現場においても語学力が求められている。一方、メディカル関連企業ではグローバル展開が主流となっており、専門知識と語学力を兼ね備えた人材が採用されるようになっている。また、研究や臨床試験の現場では、海外の論文や文献を読むことが求められる。このように医療を取り巻く世界においても様々な場面で語学力が求められている。授業では医療分野のテーマにも触れながら英語の基本的事項を修得する。	
	医療英語	医学・医療に携わる者として、国際的に急激な進歩をしている医学・医療技術に関する情報を集積し、生涯にわたり地域および国際社会で活躍できるためには英語力が必要であり、医療や研究で必要な英語表現を中心に学ぶ。英語論文を中心に読解を重ね、専門用語や単語の修得を目指す。また、読解した内容を英語でプレゼンテーションする機会を設けることで、より実践的な英語コミュニケーション力を身につける。	
	基礎ゼミナール I	本科目では学生が医療の仕事と授業との繋がりについて、グループワークによる演習形式で授業を行う。テーマに基づいた課題に対して調査、討論、発表を行い、自己表現力を養い、学生同士の交流と豊かな人間性を育て、自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間を育成する。医療の現場でも応用できる基礎的な能力を身につける。基礎ゼミナール I は医療従事者に必要な調べる能力、聞く能力、話す能力、書く能力、発表する能力の基本を身につけるために行う。さらに、学内外での学び方を実践的に演習形式で学ぶ。	
	基礎ゼミナール II	基礎ゼミナール II は医療従事者として自ら学ぶために必要な調べる能力、聞く能力、話す能力、書く能力の基本を身につけると同時に、キャリアデザインや多職種連携についての基本的な知識や技術、思考を養うための演習科目である。チーム医療に関わる多職種の連携・協働をテーマに、情報を整理し討論して、その結果をレポートにまとめてその概要のプレゼンテーションを実施する。本科目の目的は医療従事者を目指す者として、多職種連携・協働をテーマとして、情報を収集・整理し、表現する基礎力を協働しながら身につけることである。	
	海外研修 I	本科目は、中国国内にある本学提携校での活動を中心に実施する海外研修である。国際的な視野で物事を思考する力、コミュニケーションに必要な基礎的な語学力を身につけるとともに、研修をとおして、現地の歴史、文化、習慣等を体験することで、これからの多文化共生社会を生きるグローバル人材として活躍するために必要な国際感覚を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般教養科目	海外研修Ⅱ	本科目は、アメリカ国内にある本学提携校での活動を中心に実施する海外研修である。アメリカ研修では、コミュニケーションに必要な語学力を身につけるための授業をはじめ、研修先の学生との交流、文化体験などを通して、グローバルな視野を身につけるとともに、その国・地域の文化や社会に対する理解を深め、グローバル人材に求められる国際感覚を身につける。		
	教育学概論	教育についての代表的な思想や、歴史の変遷について学び、それを通して、教育についての基本的な諸概念や理念を理解する。これによって、教育という営みや、学校という制度や仕組みについて、社会との関わりから捉えることができるようになる。これまで生徒・学生として経験してきた教育を、俯瞰的・客観的に捉え直し、自分の教育観を構築していく授業である。		
	教育方法論	効果的な教育を行うためには、教材や技術など、教育方法に関する理解と工夫が必要不可欠である。この授業では、従来の基本的な教育方法について理解するとともに、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、情報機器を含め、どのような教育方法が必要とされているかを学ぶ。これを通して、適切な教材や方法をみずから選び取って授業を構築していくために、必要な知識と技能を身につける。		
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	解剖学は人体の正常な形態と構造を学ぶ学問である。本科目では、理学療法士が身体構造や疾患、障害を理解する上で必要となる解剖学的な基礎知識を学ぶ。骨格、関節と靭帯、骨格筋といった運動器系を軸に身体構造を理解することを本科目の主な目的とする。まず総論、三大分子の構造や、細胞、組織、器官、器官系という流れで人体の構成を理解する。次に骨格、関節と靭帯、骨格筋を系統的に学修する。主に講義形式で授業を進め、部分的に模型を用いグループワークも取り入れて、立体構造の理解を図る。	
		解剖学Ⅱ	解剖学は人体の正常な形態と構造を学ぶ学問である。本科目では、理学療法士が身体構造や疾患、障害を理解する上で必要となる解剖学的な基礎知識を学ぶ。本科目の主な目的は、身体運動に重要な神経系と呼吸循環器系を軸に、身体構造を理解することである。さらに、その他の臓器系についても、骨格や筋といった体表からの指標をもとに局在を把握し、疾患や障害の理解に重要な構造を中心に学修する。	
		解剖学実習	解剖学実習では、解剖学Ⅰ・Ⅱで系統別に学んだ知識をもとに、局所解剖学の観点から人体構造を立体的に理解することを目的とする。グループ形式にて、学生相互による人体構造の体表観察や触診を行う。その際に、人体構造をイメージするため人体骨格標本や各種模型などを用いる。また顕微解剖学の観点から、組織切片の光学顕微鏡観察を通して人体の構造と機能の理解を深める。解剖学の総合的な知識の修得を促すため、模型を用いた口頭試問や選択問題形式の演習問題にも取り組む。	
		生理学Ⅰ	生理学は、人体における機能を学ぶ学問である。本科目では、理学療法士が身体機能や病態を理解する上で必要となる生理学的な基礎知識を学ぶ。主に、神経系、内分泌系、呼吸循環器系の機能について理解することを本科目の目的とする。具体的には、細胞・組織の機能を理解し、生命維持に重要な血液、心臓と循環、呼吸とガスの運搬、内分泌、神経系、体液調整などにおける各機能の特徴を学修する。生命維持の環境を一定に保つための機構とその調節を行う身体機能を理解して、生命活動やその維持機能に関して深い思考力を身につける。	
		生理学Ⅱ	生理学は、人体における機能を学ぶ学問である。本科目では、理学療法士が身体機能や病態を理解する上で必要となる生理学的な基礎知識を学ぶ。主に、運動機能、脳機能、感覚機能ならびに消化器系について理解することを本科目の目的とする。具体的には、骨格筋機能、運動制御、体性感覚、特殊感覚、脳機能についても学ぶ。さらに栄養素の消化吸収からエネルギー代謝の過程や生殖機能についても学修する。生命維持の環境を一定に保つための機構とその調節を行う身体機能を理解して、生命活動やその維持機能に関して深い思考力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人体の構造と機能及び心身の発達	生理学実習	生理学実習では、生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識をもとに、実習を通して人体機能について理解を深めることを目的とする。グループ形式にて、生理学的に実験・計測を行い、基本的な実験の進め方、測定・記録方法を学修する。データを整理、解析、考察してレポートを作成する技術を修得する。主に循環機能、呼吸機能、運動機能、感覚機能について理解を深める。	
	運動学	運動学とは、人の身体運動のメカニズムを研究する学問である。本科目では、身体の運動メカニズムを理解する上で必要な知識を学修する。関節運動、基本動作、活動（運動）の実行と継続メカニズムの理解を目的とする。まず身体運動の理解に必要な解剖学、生理学、生体力学を基礎として、運動器を中心とした生体の構造や機能について学修する。また随意運動の制御や運動による生体への影響についても理解する。さらに、各身体分節の基本的な運動の理解のため体幹、上肢、下肢の各関節の基本的な構造と運動を学修する。	
	運動学実習	本科目では、生体力学および歩行などの動作のメカニズム、運動学習の理解を目的とする。また、健常者を対象に姿勢動作分析の手法を用いて解析することによる身体運動学の理解、および人間の日常生活における運動、動作の解釈についての理解を深めることを目的とする。具体的には、運動学の知識を応用し、種々の測定機器を用いて、身体重心や身体部位の物理学的様相、筋電図などのテーマについて実習を行う。実験から得られた生体情報を分析・解釈することで、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。	
	人間発達学	リハビリテーションの対象者は、新生児期から乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期まで多岐にわたる。本科目では、各ライフステージにおける発達学的特性を理解することを目標とする。授業では、それぞれのライフステージの特徴や課題、評価スケールを学ぶとともに、脳神経系、内部機能、身体構造、手の機能、知覚・認知機能、言語機能、情緒・社会性など、発達領域別の乳幼児の発達および各発達領域で使用される検査スケールについても学修する。また、人間発達過程における性差についても学ぶ。	
専門基礎科目	リハビリテーション医学	リハビリテーションという言葉には、「障害を受けた者を回復させる」という意味があり、回復の範囲は身体的、精神的、社会的、経済的等の能力を含んでいる。この中においてリハビリテーション医学で対象とするのは、特に身体的側面に生じた障害の回復に関する治療である。したがって、「障害を最小化し、残存能力を最大化するための治療と予防の医学」ということである。本科目ではリハビリテーション医学における基本や疾病の概念を理解することを目的とし、医学の歴史、生命倫理、医の倫理、疾病の定義や分類について学修する。	
	整形外科学	本科目では、理学療法士にとって必要な整形外科学の知識を修得することを目的とする。まず整形外科の基礎科学、整形外科診断総論、整形外科治療総論を学ぶ。さらに骨関節障害を中心に、四肢循環障害や神経疾患、筋疾患、ロコモティブシンドロームなどの疾患についての総論を学修する。次に身体部位別で整形外科疾患を系統的に学修する。さらに整形外科外傷学、スポーツ損傷のほか、腰痛、線維筋痛症、慢性筋骨格系痛などの整形外科領域における疼痛の診断や治療についても学修する。	
	病理学	病理学は、病気の発生原因及びメカニズムを解明することを目的とする学問である。本科目では、疾病や障害を正しく理解するために必要な病理学の知識の修得を目的とする。まず病理学総論として、病因、細胞の傷害と病的変化、代謝障害、循環障害、炎症、感染症と免疫異常、腫瘍、先天異常と老化について学ぶ。続いて病理学各論として、各器官系における主要な疾患について学ぶ。理学療法学に関係の深い神経系と運動器の疾患には重点を置く。	
	臨床心理学	臨床心理学は、心理的な問題を抱えている人の理解や回復を援助することを目的とした学問であり、心理臨床実践における2つの活動：①心理学的なアセスメントと②心理学的な支援法（介入法）、のバックグラウンドとなる学問領域である。本科目では、臨床心理学に関する基本的な知識の修得を目標に、①臨床心理学の成り立ち、②臨床心理学の代表的な理論、を中心に学修する。	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	<p>現在、精神疾患は、国が対策を策定すべき五大疾患に認定されており、その重要性が認識されてきている。本科目では、理学療法士として精神疾患を持った症例にも対応できるよう、単なる知識だけではなく、実践的な精神疾患の理解を目的とする。精神障害の原因と分類、精神障害の診断と評価、脳器質性精神障害・統合失調症・症状性精神障害などの精神疾患の原因、症状、診断、治療法について理解を深める。また、心理的発達障害や小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害についても学ぶ。</p>	
	内科学	<p>内科学とは、一般に手術によらない方法で病気を治療する医学の一分野である。本科目では、幅広い内科疾患を理解した上で、各疾患の関係性を把握することを目的とする。さらに各疾患の経過や予後を予測することも目的とする。呼吸器障害、循環障害、栄養・代謝障害、腫瘍、廃用症候群、老年症候群と系統立てて、講義を展開する。さらに、疾病の診断における問診、身体所見、記録、生化学検査、生理検査、画像検査についても学修する。</p>	
	薬理学	<p>内科的、保存的治療の代表となる薬物治療の基礎を学ぶために薬理学の基礎となる用語の概説をしながら薬理学の歴史や関連法規、新薬開発などの総論を理解する。また、分子レベル、細胞レベル、個体レベルでの神経伝達物質やその受容体の生理機能を理解する。さらに、主な疾患の成因・病態を確認・理解しながら、薬による治療効果、用いられる薬の作用機序と副作用などの生体と薬物との相互作用について各種臓器系統別に知識を身につける。</p>	
	神経内科学	<p>我が国は脳卒中をはじめとする神経系疾患の罹患率は高く、リハビリテーションの適応となることが多い。本科目では理学療法士として理解すべき神経系の機能等の基礎事項から、代表的な神経疾患について病態、症状、評価法、リハビリテーションにおける留意点などを理解することを目的とする。中枢神経系においては、脳血管疾患、感染・炎症性疾患、神経変性疾患、神経免疫疾患、外傷、腫瘍、てんかん、視覚・聴覚障害などを、末梢神経系・筋系においては、筋疾患、神経筋接合部疾患、絞扼性神経障害、腫瘍などについて説明する。</p>	
	栄養学	<p>本科目では、健康維持、疾病の予防および治療における栄養・食品の重要性を医療従事者の視点から考え、将来その知識を活用できることを目標とする。はじめに栄養に関する基礎知識をもとに、臨床現場における栄養ケア・マネジメントの重要性を理解する。臨床現場での栄養管理においては多職種連携・チーム医療としての栄養サポートチームにおける各職種の役割についても学ぶ。また、「食」にまつわる健康・医療社会の現状と食育・食生活の重要性を考え、健康づくり活動などの地域医療への貢献についても学ぶ。</p>	
	小児科学	<p>(概要) 小児科学は、小児を対象とする一般内科学である。小児は、常に成長・発達しているという特長があり、また小児の罹患疾病も成人とは異なった症状を示すものである。本科目では、成長・発達(身体・精神・生理・心理)と栄養、小児の健全育成(健診・予院)と小児疾患(診断と治療)を理解することを目的とする。小児の疾患は、多岐にわたるが、特に脳性麻痺、水頭症、二分脊椎、悪性腫瘍、遺伝性疾患、自閉症スペクトラムなどを中心に学修する。また障害児の療育や障害児の誤嚥、摂食、呼吸障害および感染症への適切対応も学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(44 井幕 充彦／8回) 小児科学概論、新生児・未熟児疾患、循環器疾患、内分泌・代謝疾患、血液疾患、腫瘍性疾患、眼科・耳鼻科的疾患について学ぶ。</p> <p>(45 池野 観寿／7回) 先天異常と遺伝病、神経・筋・骨系疾患、呼吸器疾患、感染症、消化器疾患、免疫・アレルギー疾患、腎・泌尿器系疾患、生殖器疾患、重症心身障害児について学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	画像診断学	画像診断は、超音波検査、磁気共鳴画像検査、放射線画像検査などを用いて、非侵襲的にヒト体内の疾患の形態的・機能的変化を画像化して解析する検査で、現在の医療ではその重要性を増し、不可欠な検査である。画像検査を用いた診断では多くの方法で得られた画像やその他の検査を総合的に評価し診断に至る能力が必要である。画像診断学では画像所見の評価ができる基礎知識と実際の画像を見ながら各臓器別に必要な解析のためのポイントを学ぶ。	
	救急処置法	目の前の人が突然、急病・事故に遭遇したらどうするか？平成30年のデータでは、救急車を要請してから救急隊が現場に到着するまでの平均所要時間は約10分である。その間、その人の命を守るのは目の前にいるあなたのみである。本科目では、健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、様々な状況で求められる応急処置の考え方や手順を学んでいき、現実社会の中で適切に1つ1つの状況に対応できるようになることが目標である。	
	リハビリテーション概論	本科目ではリハビリテーションの理念や制度、その歴史の変遷を理解し、リハビリテーションの種類と障害構造に応じた方法、リハビリテーション・チームワーク、リハビリテーションに関わる各種専門職の役割、障害別および疾患別のリハビリテーションに関する知識を修得することを目的とする。具体的には、①リハビリテーション概念と理念、障害構造、国際障害分類と国際生活機能分類、リハビリテーションの段階およびリハビリテーションの実践過程、②専門職の役割とチームワーク論、リハビリテーションの対象疾患について学ぶ。	
	医療統計学	本科目では、疫学統計と医療統計を理解し、実践できることを目的とする。疫学統計では、疫学の必要性、疫学研究の種類、疫学統計結果の読解方法について学ぶ。また医療統計として、基本的な統計手法を概観しながら、研究方法としての統計の機能を構築する。度数分布、代表値・散布度、相関などの記述統計の扱い方、およびt検定やカイ2乗検定などの統計的検定の手法について模擬データを用いて実践的に学ぶ。統計的数値の意味や結果の読み取り方について理解を深め、統計情報を正しく読み取る力を修得する。	
	チーム医療論	今日の医療はすべてチーム医療であり、理学療法士はその一員である。本科目では、チーム医療に関わる多職種を理解することと、チーム医療の重要性が理解できることを目的とする。具体的には、診療チームとしてのリハビリテーションチーム、チーム医療と多職種連携について説明できるように理解したうえで、理学療法士という専門職としてどのような役割を持って、多職種とどのように連携・協働してチーム医療に貢献するかを理解する。	
地域包括ケアシステム論	地域包括ケアシステムが展開されている現在において、対象者を住み慣れた町で支援していくために必要な基本的知識を修得する。地域包括ケアシステムにおいては、医療モデル（急性期、回復期）から生活期（生活モデル）への連続した転換が必要であり、理学療法士には医療機関以外での活動も広く求められる。本科目では、これらを見据え、医療から連続した生活支援に加え、介護予防、健康増進、災害時支援等について広く概略的に学修する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎理学療法学	理学療法士に求められる基本的な資質・能力の修得および学士課程における問題意識と学修の動機づけの向上のため、主として理学療法士の使命や役割、責務を理解する。具体的には、理学療法の定義と範囲、歴史、理学療法とリハビリテーション、臨床・教育・研究における理学療法、理学療法のコアコンピタンスとコアコンピテンシー、職業（臨床）倫理、専門職の責務としての生涯学習と社会貢献、利用者保護について、実際の臨床体験や臨床における理学療法士や利用者の体験も交え学修する。	
		臨床領域における理学療法の基礎を理解することを目的に、種々の疾患や障害に共通する機能障害とその理学療法の概要について学修する。具体的には、各種疾患や障害に共通する機能障害の病態やメカニズムを部位別に理解し、そのうえで理学療法の基礎としての触診、運動療法、物理療法、義肢装具療法、運動指導、生活指導、患者教育、予防・健康増進の概要を理解する。また、理学療法士が実践する研究としての臨床研究とその方法および基礎的研究の概観についても理解する。	
		理学療法の基軸である運動療法の基礎を総論的に学修し、治療の歴史、理論、概念を理解することを目的とする。運動療法学は、理学療法の対象であるあらゆる疾患、障害への対応、介入の基礎をなすものである。本科目では、運動療法の歴史や種類、現在の運動療法論について教授し、特殊なテクニックを用いない基本的運動療法として、他動運動、筋力強化、体重負荷練習、歩行・走行練習の手法や原理を学修する。	
		本科目では、運動療法の歴史や種類、現在多く用いられている運動療法の理論を理解したうえで、特殊なテクニックを用いない基本的運動療法としての他動運動、ストレッチング、筋力強化運動、体重負荷練習について、学生が相互に実施し、健常者（理学療法学生）に対してリスクなく効果的に実施できるようになることを目標とする。主として実技を繰り返し実践することによって、基盤としての知識と実践能力の定着を図る。	
		本科目では、医療現場における安全性を管理するために必要な知識を修得することを目的とする。医療事故（アクシデント・インシデント）・院内感染について実例を交えて紹介し、発生要因やリスクマネジメントについて考察する。そして、医療事故（インシデントを含む）が発生した場合の対応についても理解を深める。さらに医療の安全性を確保するための対応策についても実践的に学修する。医療現場における清潔・不潔の概念を理解した上で、効果的な感染対策についても学ぶ。	
	理学療法管理学	本科目では、理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本について学修する。まずは、診療記録や書類・情報管理、リスク管理などの理学療法士が一般的に実施している基本業務とその質保証を理解したうえで、社会保障制度、報酬体系（医療保険制度および介護保険制度）を学修する。さらに、管理職の要件としての人事考課や労務管理、財務管理、ブランディング、マーケティング、コンプライアンスを理解する。また、他職種や上長（経営陣）、地域の利害関係者等の関係構築やコンフリクトマネジメントについても理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法評価学	理学療法評価学	本科目は、根拠に基づいた理学療法を実践する基本として、情報収集、検査・測定、統合と解釈、問題点の抽出、目標設定という基本的な理学療法評価を理解することを目的とする。本科目では理学療法評価の目的と理学療法評価における論理的思考、情報収集に関する知識、目標設定の方法、予後の考え方を学修する。また、具体的な検査測定としての筋力検査や関節可動域検査、感覚検査、反射検査、形態測定、その他の理学的検査の概略や基本的考え方についても学修する。
		理学療法評価学実習Ⅰ	理学療法は対象者の評価を行い、その結果に基づき治療を展開し、効果を判定する。理学療法評価は事前に患者の情報を得るところから、治療プログラムを立案する過程である。本科目では、関節可動域測定、筋力測定、形態測定、姿勢の評価、疼痛検査、日常生活活動検査を中心に、理学療法評価の基礎を実践的に理解し、各種検査測定の理論や評価技術を修得することを目的とする。理論部分である各種検査測定の目的、意義、医学的根拠、科学的妥当性、実施にあたっての注意点を理解した上で、実技を繰り返し行うことにより知識、技術を学修する。
		理学療法評価学実習Ⅱ	本科目では、全身状態の評価（脈拍、血圧、呼吸数、経皮的酸素飽和度、体温など）、感覚検査、反射・反応検査、筋緊張検査、協調性検査、バランス・平衡機能検査、意識障害の評価、呼吸・循環機能検査、動作の評価を中心に理学療法評価の基礎を実践的に理解し、各種検査測定の理論や評価技術を修得することを目的とする。理論部分である各種検査測定の目的、意義、医学的根拠、科学的妥当性、実施にあたっての注意点を理解した上で、実技を繰り返し行うことにより知識、技術を学修する。
		理学療法評価学演習Ⅰ	本科目では、評価学の一次的集大成として、3年次の臨床評価実習で活用できる臨床的な評価技能を身につけることを目的とする。運動器疾患の模擬症例を対象に、これまでの評価の知識と技術を総動員して、情報収集→面接・観察→検査・測定→統合・解釈→問題点の抽出→目標設定→治療プログラム立案にいたる評価過程を学修する。評価の過程では、ニーズの想起や抽出にも留意する。そして、標準的な疾患の模擬症例であれば学生一人でも評価できるレベルを目指す。
		理学療法評価学演習Ⅱ	本科目では、評価学の一次的集大成として、3年次の臨床評価実習で活用できる臨床的な評価技能を身につけることを目的とする。神経系疾患を中心とした模擬症例を対象に、これまでの評価の知識と技術を総動員して、情報収集→面接・観察→検査・測定→統合・解釈→問題点の抽出→目標設定→治療プログラム立案にいたる評価過程を学修する。評価の過程では、ニーズの想起や抽出にも留意する。そして、標準的な疾患の模擬症例であれば学生一人でも評価できるレベルを目指す。
	理学療法治療学	物理療法学	物理療法は基本的な理学療法手段の1つであり、物理療法を生体に安全かつ効果的に適用するためには、用いる機器の操作法と物理的エネルギーの特性やそれに対する生体組織の反応を十分に把握することが必要不可欠である。本科目では、物理療法の種類を理解したうえで、基礎的理論としての物理的エネルギーの特性とそれに対する生体反応を理解し、物理療法の具体的な手法としての温熱療法、寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法、牽引療法の目的と適応（効果）と禁忌（リスク管理）、実施方法（手順と操作法）について学修する。
		物理療法学実習	物理療法で用いる物理的エネルギーの特性やそれに対する生体組織の反応や各種物理療法機器の簡単な操作や実施方法について修得したうえで、実際の理学療法として物理療法を展開していくために必要である患者の状態を正しく評価できる能力、適切な物理的エネルギーを選択する能力、正しい方法実施する能力、各種物理療法を有効かつ安全に適用できる能力を学修する。本科目は、グループワークを中心とし、臨床場面を想定した模擬患者の臨床像に適した物理療法の展開をまとめていく。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
理学療法治療学 専門科目	義肢装具学	リハビリテーションにおける義肢装具の給付制度、意義、歴史、現状について、義肢装具の目的、材料を学び、義肢・装具の種類と特徴、各種疾患に対する義肢装具療法の適応と理学療法介入における役割など全体像を理解することを目的とする。さらに臨床における義肢装具療法の位置づけをとらえるとともに義肢装具の製作過程を学修し実際の利用者に対する適合と修正方法、義肢装具を用いた治療方法や具体的な介入方法の実際について学修する。また、車椅子に関しても学ぶ。	
	義肢装具学演習	(概要) 本科目では、装具、車椅子のチェックアウトや調整、および装具に関しては、実際の製作過程や修正方法について学ぶ。義足・義手については理学療法士も対応を求められる断端管理を中心に学修する。義足歩行に関しては異常歩行の現象、原因、修正方法、理学療法介入について理解する。 (オムニバス方式 全15回) (4 大畑 光司/3回) 義足を用いた理学療法介入について学ぶ。具体的には、義足歩行の特徴、異常歩行、義足の異常歩行の評価、義足の異常歩行に対する理学療法について学修する。 (50 山田 大樹/12回) 義肢装具全般に関わる基本事項を学ぶ。装具のチェックアウト、採寸・採型のみならず、車椅子や断端管理についても学修する。	オムニバス方式
	日常生活活動学演習	本科目では、日常生活活動の定義や概念、日常生活活動における諸動作とその障害および日常生活活動の諸評価を理解する。寝返り、起き上がり、立ち上がり、移乗、歩行といった基本的動作を中心に諸動作における動作指導と介助法についても学修する。また、日常生活活動と身体機能の関係について文献を用いて考察を深めた上で、模擬的に身体障害を再現した状態で日常生活活動を体験する。	
	老年期障害理学療法学演習	本科目は、加齢に伴う心身機能の低下や高齢者の健康増進に対する理学療法評価・治療の知識および技術を修得し、実践できることを目的とする。昨今の超高齢社会において、高齢者の健康寿命の延長や高齢者ならびにその家族のQOLの向上が求められている。高齢者の加齢に伴う身体・精神機能の低下や健康増進に対して理学療法は重要な役割を担っている。本科目では、高齢者の身体・精神機能の特性と高齢者に見られる疾患の病態を理解し、機能低下だけでなく予防・健康増進に対する包括的な理学療法の評価および治療の知識・技術を学修する。	
	運動器障害理学療法学	運動器は骨・関節・神経・筋・軟部組織などの身体を支え全身の運動を司る重要な器官であり、運動器の障害は理学療法の主な介入対象である。本科目は、運動器の障害に関する病態、リスク管理、理学療法評価・治療、予防など基礎的な運動器理学療法学の知識の修得を目的とする。主に運動器の外傷ごとに創傷の治癒過程と代表的な医学的治療ならびに理学療法評価、理学療法について学修する。同様に、末梢神経損傷や関節リウマチについても学修する。	
	運動器障害理学療法学実習	運動器は骨・関節・神経・筋・軟部組織などの身体を支え全身の運動を司る重要な器官であり、運動器の障害は理学療法の主な介入対象である。本科目は、運動器障害理学療法学での学修に基づき、より臨床に即した実践的な運動器障害に対する理学療法学の知識および技術の修得を目的とする。整形外科領域を中心とした運動器障害の各論について、臨床場面を想定しながら、理学療法士が対応する頻度の多い代表的な運動器疾患の症例を例示して理学療法評価、治療プログラムの立案、治療、およびリスク管理や再発予防の実際を学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 理学療法治療学	神経障害理学療法学	<p>本科目では、脳血管疾患等の中枢神経疾患に対する理学療法に関する知識を学ぶことを目的とする。対象疾患は、脳血管障害、高次脳機能障害、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、外傷性脳損傷、脳腫瘍、脊髄損傷など様々であるが、なかでも理学療法の対象として頻度の高い脳血管障害に起因する片麻痺を中心に障害の評価と理学療法の基本的な治療方法や二次的障害の予防について学ぶ。また、理学療法の基礎知識を疾患別に学修するとともに、神経系障害におけるクリニカルリーズニングを理解し、より効果的な運動療法について学ぶ。</p>	
	神経障害理学療法学実習	<p>本科目では、神経障害理学療法学で修得した知識を基に具体的な評価治療の技術を修得することを目的とする。評価においては、理学療法評価学で学修した事項を基盤として、より疾患、障害に特有の評価を実践する。基本的理学療法については、代表的疾患、障害への介入方法、二次的障害の予防に関する実技を繰り返し実践することで理解を深め、基本的理学療法が指導者の監督のもとで実践できるよう学修する。また、症例検討を通じた理学療法過程の概観により、総合的な考察力を身につける。疾患の病態を理解した上で評価、プログラム作成、理学療法実施に関する基礎手法を学修する。</p>	
	内部障害理学療法学	<p>本科目では、内部障害すなわち呼吸器疾患、循環器疾患、内分泌・代謝疾患、消化器疾患、腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、血液疾患、自己免疫疾患、がん関連障害における病因や症候、および代表的な検査、診断、治療、予防を理解し、なかでも理学療法および疾患別リハビリテーションの主たる対象である心血管系、呼吸器系、糖尿病、がんを中心に、その理学療法評価と理学療法の実際を病期や重症度に合わせた各々のリスク管理と介入方法について学修する。また、内部障害理学療法の重要な手法である患者指導や生活指導についても修得する。</p>	
	内部障害理学療法学実習	<p>本科目では、理学療法の対象となる内部障害の基礎的事項を理解したうえで、理学療法の対象となる代表的疾患、すなわち呼吸器疾患、循環器疾患、糖尿病、がん等の評価方法を理解し、評価方法に至っては、理学療法評価学で学修した事項を基盤として、より疾患に特有の評価を実践する。さらに、基本的理学療法としての各疾患への介入方法や予防に関する実技を繰り返し実践することで理解を深め、基本的理学療法が指導者の監督のもとで実践できるように学修する。</p>	
	発達障害理学療法学演習	<p>本科目では、胎児期から新生児期および乳幼児期など、発達途上で生じる発達障害に対する小児リハビリテーション（療育）および小児科領域の理学療法を学修することを目的とする。発達障害児・者に対する理学療法アプローチは、新生児期から乳幼児期を経て、学齢期、青年期、成人期、老年期を含めた一生涯にわたる療育支援である。それぞれの障害児・者のライフステージにおける問題特性を理解した上で、理学療法を提供する必要がある。また代表的な疾患である脳性麻痺や小児整形疾患、筋原性疾患などの臨床像や発達の特徴、それらの理学療法における基本的理論や技術、二次的障害の予防について実践的に学修する。</p>	
予防理学療法学	<p>本科目では、国民の健康増進、予防に対する理学療法士の役割や内容について理解する。具体的には、健康に関連する政策について理解したうえで、予防理学療法学として各種機能障害の予防と再発予防、世代や領域別の予防、健康増進について学修する。さらに、予防に資する理学療法士の役割、運動しやすい環境整備といった国土交通行政や政策提言についても学修する。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法治療学	<p>(概要) 本科目では、理学療法に関連する先進技術として、ロボット、遠隔コミュニケーション、センサー、AIを取り上げ、それらの理学療法への応用について学修し、各々の仕様や機能、実践例を理解する。疾患別・障害別の理学療法への応用や地域包括ケアシステム、予防領域への応用についての理解を深めることを目的とする。病院等におけるロボットをはじめとする先端的な機器を用いた理学療法の理論と実際、介護支援における科学技術の応用としてのロボットやデバイスの理論背景とそれらを用いた実際の介入方法を学修する。また、科学的分析によって得られたデータをもとにした運動指導や遠隔からの間接的理学療法（テレリハビリテーション）等についても学修する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(1 大工谷 新一／6回) 介護、理学療法、スポーツ領域におけるセンサー・GPSの活用や応用について学ぶ。さらにAIを活用した理学療法の応用についても学修する。</p> <p>(4 大畑 光司／9回) ロボットを用いた介護技術支援や理学療法への応用を学ぶ。さらに遠隔ツールを用いた地域での健康増進事業や集団指導についても学修する。</p>	オムニバス方式
	地域理学療法学	<p>地域理学療法の意義と現状、将来展望について学修することを目的とする。地域における理学療法の具体的な事例をもとに、地域理学療法と従来の病院、施設での理学療法との共通点や相違点を理解する。また、介護保険等の制度とリハビリテーションとの関係を十分に理解したうえで、評価から治療プログラム立案、治療までの流れを学修する。また地域理学療法におけるターミナルケアや、代表的な疾患についての事例検討も交えて学修する。</p>	
	地域理学療法学	<p>運動療法を中心とした対象者側の問題（内的因子）の解決とともに、住環境整備や公共交通機関のユニバーサルデザイン化といった環境側（外的因子）の対策を併せて、リハビリテーションの概念と方法論が構築されている。本科目では、バリアフリーやユニバーサルデザインといった生活環境の定義・概念やそれに関わる法制度を理解し、日常生活活動における外的因子の評価、問題解決の原理等を考え、能力障害に最適な環境整備を理解することを目的とする。一般的な疾患・障害別の環境整備について具体例や方法の原理に関して学修する。</p>	
	地域理学療法学演習	<p>地域理学療法を直接的に提供する場合は、大きくは通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションに分けられる。また、運動指導や生活指導など地域理学療法における間接的な介入はそれらの場に加えて、施設等でも実施される。本科目では、地域理学療法における手段としての直接的介入と間接的介入について学修し、それらの事例を供覧しながら、グループワークやシミュレーションによる体験を通して各種介入内容および理学療法士の役割、業務について理解する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 臨床実習	臨床基礎実習	臨床基礎実習は、臨床実習指導者の対象者への対応の見学や自身の対象者との関わりを通して理学療法士の役割の理解や自覚と責任、適性について深慮するとともに、対象者のホープの理解やダイヤモンドの想起に繋げることを目的とする。臨床実習指導者の指導・教育のもと、理学療法場面および他部門の見学や医療面接の一部体験を中心とした実習を行う。また、学外実習後には学内でのフィードバックを実施し、学外実習による学修成果を確認する。	
	検査・測定実習	検査・測定実習は、学内学習で実施可能となったいわゆる検査・測定を臨床現場で実践し、以後の臨床実習での学修を円滑かつ効果的に進めるための経験を蓄積することを目的とする。具体的には、臨床実習指導者の指導・教育のもと、臨床現場で対象者に対する形態測定や関節可動域測定、徒手筋力検査などの基本的な検査・測定手技を実践する。また、学外実習後には学内でのフィードバックを実施し、学外実習による学修成果を確認する。	
	臨床評価実習	本科目は、ダイヤモンド、ニーズの想起、トップダウン過程による評価、学生なりの臨床推論による主要問題点の抽出を経験することにより、評価技術の習得のみならず、問題解決を図る思考力を身につけることを目的とする。臨床実習指導者の指導・教育のもと、ダイヤモンド、ニーズの想起、トップダウン過程による評価、臨床推論による主要問題点の抽出を経験する。また、学外実習後に学内でのフィードバックや実習報告会を実施し、学修成果を確認する。	
	総合臨床実習 I	本科目は、対象者の有する各種疾患の病態や障害像を把握した上で、対象者個人のニーズの想起およびその妥当性の検証と、理学療法評価から治療までの一連の理学療法過程を診療参加によって経験し、基本的な理学療法の実践力を身につけることを目的とする。臨床実習指導者の指導・教育のもと、学内で習得した知識と技術を基礎に総合的な理学療法の実習を行う。また、学外実習後に学内でのフィードバックや実習報告会を実施し、学修成果を確認する。	
	総合臨床実習 II	本科目は、対象者個人の障害像や全体像（生活機能）を把握するとともに背景因子（環境因子や個人因子等）を考慮した理学療法の実践力を身につける。診療チームの一員としての理学療法士の役割を学修することを目的とする。臨床実習指導者の指導・教育のもと、対象者に応じた評価、治療計画立案、治療の実践といった理学療法の一連の過程を経験する。それに加え、自らの仮説による1つの主要問題点の抽出とその対応（体験、水準1レベル）についても実施し、統合的に学修する。また、学外実習後に学内でのフィードバックや実習報告会を実施し、学修成果を確認する。	
	地域理学療法実習	地域在住の理学療法対象者に対して、生活機能に視点を置いた評価を行い、評価に基づく対象者の課題解決を図るまでの一連の理学療法過程を経験することで、地域における理学療法士の役割、生活を行う上で求められる機能や環境について理解することを目的とする。臨床実習指導者の指導・教育のもと、訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーションにおける一連の理学療法過程を経験する。また、学外実習後には学内でのフィードバックを実施し、学外実習による学修成果を確認する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	理学療法学研究法	<p>理学療法がエビデンスを得ていく過程において、理学療法士には研究能力が求められている。本科目では、臨床疑問の抽出および情報の批判的吟味、臨床疑問の解決に向けた論理的な思考過程、得られた情報の伝達能力を養うことを目的とする。また、研究に関して以下の基礎的知識を得る。研究の意義、研究の分野、研究の種類、統計的手法、研究の手順、研究と倫理規定、知的財産保有権に関わる事項、研究に関する費用の問題、研究者の社会的責任について等とする。</p>	
	総合理学療法学演習 I	<p>(概要) 本科目は、学内および学外実習で学んだ知識・技術を統合し、患者個人の特性および疾患・病態を考慮したリスク管理、他職種からの情報収集、評価項目の選択、評価の実施、評価結果の解釈、問題点の抽出、目標設定、治療プログラムの立案と実施といった一連の理学療法過程を連結することを目的とする。臨床で患者と関わる上で理学療法士に求められる課題解決能力を身に着け、総合臨床実習 I および II に向けた知識・技術・思考過程の定着を図る。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(4 大畑 光司 / 6回) グループワークや発表を通して、神経障害ならびに発達障害における理学療法総論、臨床推論、治療について学修する。</p> <p>(① 野口 雅弘 / 5回) グループワークや発表を通して、内部障害における理学療法総論、臨床推論、治療について学修する。</p> <p>(9 宮地 諒 / 4回) グループワークや発表を通して、運動障害における理学療法総論、臨床推論、治療について学修する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 総合科目	総合理学療法学演習Ⅱ	<p>(概要) 本科目は、学内および学外で学んだすべての知識・技術・思考過程を統合し、急性期・回復期・生活期などの病期を考慮した上で個人の特性および疾患・病態に応じたリスク管理、理学療法評価・治療についての一連の過程をより深く理解し、情報を整理することを目的とする。本科目の学修過程においては、施設内だけでなく地域の中での理学療法士の役割やキャリアマネジメント、研究的視点など幅広い観点から理学療法をとらえ、自己研鑽力も養う。</p> <p>(オムニバス方式 全30回)</p> <p>(4 大畑 光司/3回) 発達障害を対象に、病期を考慮した上で個人の特性および疾患・病態に応じたリスク管理、理学療法評価・治療についての一連の過程を学修する。</p> <p>(7 金澤 佑治/2回) グループワーク形式で、理学療法評価と治療の基礎となる筋骨格系を中心に人体構造・機能について学修する。</p> <p>(8 岡山 裕美/6回) 運動器障害を対象に、病期を考慮した上で個人の特性および疾患・病態に応じたリスク管理、理学療法評価・治療についての一連の過程を学修する。</p> <p>(7 金澤 佑治・8 岡山 裕美/2回) (共同) 運動器障害をテーマに、グループワークにて症例検討を行い、発表する。</p> <p>(10 合田 明生/6回) 神経障害を対象に、病期を考慮した上で個人の特性および疾患・病態に応じたリスク管理、理学療法評価・治療についての一連の過程を学修する。</p> <p>(10 合田 明生・11 西村 卓朗/2回) (共同) 神経障害をテーマに、グループワークにて症例検討を行い、発表する。</p> <p>(11 西村 卓朗/1回) 予防・健康増進分野において、個人の特性および疾患・病態に応じたリスク管理、理学療法評価・治療についての一連の過程を学修する。</p> <p>(12 武田 広道/6回) 内部障害を対象に、病期を考慮した上で個人の特性および疾患・病態に応じたリスク管理、理学療法評価・治療についての一連の過程を学修する。</p> <p>(11 西村 卓朗・12 武田 広道/2回) (共同) 内部障害をテーマにグループワークにて症例検討を行い、発表する。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	卒業研究	<p>卒業研究では、自ら実験して得られた成果をもとに卒業論文を作成する。本科目では、基本的な研究的思考を学び、自ら実験して得たデータをもとに成果物を作成する能力を養う。本科目は少人数形式で行う。まず、解くべき問いとなる興味・関心事項を発見し明確にする。次に、実験技術や解析手法を実践的に学び、得られた結果を考察する。最後に研究成果を発表し、最終的には卒業論文を作成する。一連の過程を経験することで、研究的思考と実践力を身につける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 発展科目	スポーツ科学	本科目では、学際的領域としてのスポーツ科学について広く学修する。具体的には、身体運動を基軸とするスポーツや身体運動における性差や時差、栄養の影響、およびその要素としての筋力や柔軟性、トレーニングの種類としてのコンディショニングとリコンディショニング、および有酸素運動と無酸素運動の概略について学修する。また、神経科学からみたスポーツやスポーツ指導におけるピリオダイゼーションや運動動作解析についても学修する。さらに、スポーツコンプライアンスとしてのドーピング問題やスポーツ科学の社会的側面としてのスポーツ社会学、スポーツマネジメントについても理解する。	
	アスレチックリハビリテーション概論	スポーツ外傷・障害の治療と医学的リハビリテーションの後に競技復帰を目指して主として競技現場で実施されるものがアスレチックリハビリテーションである。本科目では、医療現場だけでなく、学校運動部やスポーツチームにおける理学療法士への期待が高まっていることに鑑みて、日常生活活動能力を獲得した後の競技復帰を目指したリハビリテーションや再発予防のあり方と実際の方法の概略について学修する。さらに、女性アスリート、ジュニアアスリートへの対応、海外遠征での注意点やドーピングについても理解する。	
	運動神経生理学	本科目では、人間の運動に関して、その機序と反応（影響）について学修する。まずは、筋、呼吸器系、循環器系、代謝系に対する運動の影響（反応）、および運動負荷の増減に係るそれらへの影響を理解する。さらに、身体運動に加えて日常生活動作を含めた人間の運動・動作の神経機構や調整（制御）機構についても学修する。具体的には、運動・動作の学習過程や再学習過程における神経機構や運動・動作の正確性、たくみさ、フィードフォワード機構、フィードバック機構について学修する。	
	バイオメカニクス	本科目では、運動（関節運動、全身運動）によって加わる外力および発生する内力と生体との関係性について学修する。基本動作やスポーツ動作を例に挙げて、それらの動作や運動中に身体の諸組織に加わる力を供覧し、運動指導や理学療法の実践に役立てることを目的とする。特に、歩行と走行時の床反力とそこから派生する関節内力、投球動作等の代表的スポーツ動作において靭帯や関節組織に加わる力について文献レビュー等を含め学修する。	
	トレーニング論	スポーツ科学領域や理学療法領域にとって有用なトレーニングについて、トレーニングの原理、原則について学修する。過負荷の原理、特異性の原理、可逆性の原理、全面性の原則、個別性の原則、意識性の原則、漸進性の原則、反復性の原則の各々について理解するとともに、筋力、筋持久力、全身持久性等の実際のトレーニング実技も取り入れることで、トレーニングに関する理論と効果、生体への影響を体験し、理解を深める。	
	スポーツ障害理学療法学	本科目では、スポーツ外傷・障害の発生機転を理解し、スポーツ理学療法の概要を考え方を理解する。基本的理学療法に関する学習内容を基盤として、スポーツ理学療法に特有のスポーツ基本動作練習やテーピング、装具療法についても学修する。また、スポーツ動作の再獲得と競技復帰に向けた段階的介入方法とその実践についても学修する。さらに、スポーツ現場での活動の考え方と概要、注意点およびスポーツ外傷・障害の予防に関しても理解する。	
	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学は、車椅子や各種福祉機器など幅広く活用され、リハビリテーションに活用できる知識・技術である。本科目はリハビリテーション工学の歴史的背景を踏まえた上で、医療・福祉現場におけるリハビリテーション工学の実際を学習し、工学的思考を養うことを目的とする。理学療法に必要な生体工学、人間工学を中心に学び、その特性に適合した福祉機器の選定や利用方法について学習する。そして、工学的手段によってリハビリテーションの対象者の活動・参加やQOLが向上することを総合的に理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 発展科目	東洋医学	<p>本科目では、東洋医学の概要を学び、基礎知識を身につけることを目的とする。現代の西洋医学と異なる東洋医学独特の診断・治療体系に関する独特な考え方、生理学・病理学・診察学・治療学の基本的知識を学修する。実際に漢方薬は広く処方され、鍼灸治療の対象は、理学療法の対象と多く共通し、スポーツ障害をはじめとした各種の機能障害に有効とされている。西洋医学の観点からばかりでなく、東洋医学の観点からもアプローチできる能力の獲得を目指すため、東洋医学の概要、考え方、西洋医学との相違等を学修する。</p>	
	医用情報科学概論	<p>医療機器の理解は疾患の診断、治療と密接に関係する。本科目では、生体の特性を理解しながら医療機器の原理、特徴、および使用方法の基本的知識を身につけることを目的とする。医用画像処理、医用ロボット工学、生体情報工学、医用情報ネットワークといった医用情報科学の知識を活用できるよう、医療機器の特徴と使用方法、医療機器を通して起こり得る事故事例や対処、理学療法への応用について学修する。</p>	
	東洋医学治療学	<p>本科目では、東洋医学の治療に関する知識を身につけることを目的とする。近年、西洋医学的治療では対処できない、あるいは十分な加療ができない疾患、症候に対して、東洋医学などの代替補完医療が注目されている。本科目では、現代の西洋医薬学と異なる漢方医薬学独特の診断・治療体系に関する独特な考え方、生理学・病理学・診察学・治療学の基本的概念を修得し、漢方治療に関する知識を身に付ける。東洋医学の各種治療法について紹介し、さらに漢方治療を症状別に学ぶ。</p>	
	免疫・感染症学	<p>本科目では、免疫と感染症に関する知識を深めることを目的とする。ヒトの免疫系を理解するために、免疫血清学の概要（概念と歴史）を確認し、抗原抗体反応の原理、免疫系器官と細胞、免疫グロブリン、補体の活性化経路と生理作用等を学ぶ。これら免疫機構を構成する各種検査法やワクチンに関連する知識も学習した上で、感染についての知識や対策を具体的に学修する。</p>	
	疾病予防と健康増進	<p>理学療法士においては予防の面での関わりが求められるようになってきており、予防理学療法に通じる疾病予防や健康管理のあり方について学修する。この授業では予防の概念について整理した上で、人間におけるストレスや人間のライフイベント（ライフスタイル）に応じた評価と対応を学修する。さらに、健康増進に関連する行動変容の段階と特に運動習慣に関する理論的背景と介入方法、具体的手段としての個別指導、集団指導についてもその方法やポイントについて学修する。また、感染症予防についても学修する。</p>	
	臨床薬学	<p>本科目では、薬理学で学習した薬物療法の知識を基礎とし、各種疾患に対する薬物療法の実際を学習する。また、薬物療法に伴う理学療法実施上の留意点を学習し、チーム医療の中での薬物療法と理学療法の位置づけを理解することを目的とする。本科目では、薬物の効果、副作用、相互作用について学び、医薬品の適正使用と多職種連携による医療安全対策についても理解を深める。</p>	
	公衆衛生学	<p>世界保健機関では、公衆衛生を「共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し寿命を延長し、身体的・精神的健康を増進する科学であり技術である」と定義している。本科目の目的は、わが国の健康水準がどう評価されるのか、どのような健康施策が進められ、住民の健康が守られているのかについて理解することである。そのため、本科目では、公衆衛生と予防医学の概念や疫学の意義について学び、保健活動、労働衛生、衛生行政、生活環境について理解を深める。</p>	
	臨床生理学	<p>本科目の目的は生理機能検査の必要性を理解し、生理機能情報の収集・解析を疾患・症状と関連付けて実施できるようになることである。生理学や生理学実習での知識を基礎とし、画像や波形などの生理機能情報を収集し解析・解釈するための理論を学修する。そして、得られた生理機能情報を各種疾患と関連付けて臨床現場で活用する手段を身に着ける。講義とともに計測技術演習や症例提示を行い、検査結果の解析と解釈について学修する。</p>	

学校法人北陸大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
北陸大学				北陸大学				
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	105	-	630	薬学科(6年制)	<u>100</u>	-	<u>600</u>	定員変更(△5)
経済経営学部				経済経営学部				
		3年次				3年次		
マネジメント学科	305	108	1,436	マネジメント学科	305	<u>103</u>	<u>1,426</u>	編入学定員変更(△5)
国際コミュニケーション学部				国際コミュニケーション学部				
		3年次				3年次		
国際コミュニケーション学科	95	40	460	国際コミュニケーション学科	95	<u>30</u>	<u>440</u>	編入学定員変更(△10)
心理社会学科	45	-	180	心理社会学科	<u>60</u>	-	<u>240</u>	定員変更(15)
医療保健学部				医療保健学部				
医療技術学科	65	-	260	医療技術学科	65	-	260	
				理学療法学科	<u>60</u>	-	<u>240</u>	学科の設置(認可申請)
計				計				
		3年次				3年次		
	615	148	2,966		<u>685</u>	<u>133</u>	<u>3,206</u>	